

四つの季節の鉄道ものがたり 秋

小湊鐵道の思い出

千葉で過ごした学生時代、何かで悩んだり、気持ちを切り替えたくになると、よく小湊鐵道に乗りに行った。

房総半島を走る小湊鐵道は、JR内房線の五井駅で乗り換え。「木造の駅舎とか、どんどん山の奥に入っていく車窓の景色がかなりいいよ」と当時の担当教授に教えてもらい、大学三年生のある時、思い切つてひとりで乗りについてみた。目的地に行くための交通手段としてはなく、ただ「乗る」ことを目的に鐵道に乗るのは初めての経験だった。

当時何をそんなに悩んでいたのか、詳細は覚えていない。けれど、おそらくその大半が進路か恋愛か人間関係―

―つまりは学生時代にみんなが悩む、そういう種類のことだった。今でこそ些細なことと忘れてしまっているけれど、その頃の私には一大事だった悩みの数々。中でも、作家になりたいという気持ちは強くて、自分が将来どうなるのかわからない不安にたびたび押しつぶされそうになった。

山梨で生まれ育つた私にとって、千葉は海のイメージが圧倒的だったが、小湊鐵道の車窓に広がる田園風景にその認識が改まっていく。故郷の景色とは違うのに、それでも無性に「懐かしい」。その当時の親友や恋人や―自分の大切な人たちにこの景色を見せたいと思えると、その時々悩んでいた

辻村深月

気持ちが不思議とすっと消えていく。

悩みは人に周りの景色を忘れさせ、季節感を奪う。ある時、読みかけの本から顔を上げ、窓の外に養老溪谷の紅葉を見て、あまりの美しさに息を呑んだ。季節が秋であることさえ、その頃の私は気に留めることはなかったのだ。

今、大人になって、私は再びあの沿線付近にお邪魔することが増えた。

六年前に生まれた長男が大のぞう好きになり、市原市にある動物園「市原ぞうの国」に通うようになったからだ。行くと、近くの養老溪谷の温泉旅館に泊まるのがセットになっている。蛍が見られる初夏と、紅葉の美しい秋には特によく行く。

イラスト・岡林玲

みんな

CONTENTS
Vol.
63
2017

◎日本民営鉄道協会とは？
昭和42年に社団法人として設立、平成24年4月1日付で一般社団法人に移行、72社の民営鉄道会社で組織されています。
輸送力の増強と安全輸送の確保を促進し、鉄道事業の健全な発達を図り、もって国民経済の発展に寄与することを目的とした活動を行っております。
なお、JR各社や公営地下鉄などは加入していません。

東京から市原まではいつも夫が運転する車だが、車が小湊鐵道の踏切に差し掛かると、列車が通ってくれないかな、とつい期待してしまう。思いが通じると、不思議と遭遇できる率が高い。のどかな田園風景の真ん中をやつてくる列車に、後部座席の子どもたちが「わあー近い！」「この電車、おもちゃみたいでかわいい」と声を上げる。走り去るその姿を見ていると、そんなはずないのだけど、あの頃の自分が中

乗っている気がする。周りの景色が見えないくらい俯いていたあの日のどこかで、私たち家族の乗る車がこんなふうに踏切の前にいたこともあったのかもしれない、と。
小湊鐵道の、懐かしさの中で、不思議とそんなことが起こりそうな気がする。
これから先の自分がどうなるのか、不安で俯く当時の私に、車の中からそつと、「なかなか楽しいよ」と呼びか

ける。こんなふうに過去の自分と出会える日も必ず来るからどうかたつぷり悩んでね、と心の中でエールを送る。
つじむらみづき
作家。山梨県出身。2004年「冷たい校舎の時は止まる」で第31回メフィスト賞を受賞しデビュー。11年「フナク」で第32回吉川英治文学新人賞、12年「鍵のない夢を見る」で第147回直木三十五賞を受賞。著書に「子どもたちは夜と遊ぶ」「凍りのくじら」「ぼくのメジャースプーン」「スロウハイツの神様」「ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。」「鳥はぼくらと」「家族シスター」「朝が来る」など。近著に「クローバーナイト」「がみの孤城」がある。



02 小湊鐵道の思い出 作家 辻村深月

04 公的支援の嚆矢― 「群馬型上下分離」による 鉄道維持の取り組み REPORT.1 特集／「群馬型上下分離」―20年の軌跡と展望 「上信電鉄・上毛電氣鐵道の経営努力と地域の支援」

- 群馬県県土整備部交通政策課 補佐(鉄道振興係長) 萩原則夫
- 群馬県県土整備部交通政策課 主幹 井澤悟志
- 群馬県県土整備部交通政策課 企画調査係長 松田隆行

10 地方鉄道存続への 自助・共助の取り組み REPORT.2

- 上毛電氣鐵道株式会社 総務部 次長 新木三雄
- 上信電鐵株式会社 取締役総務部長 宮川良伸
- 上信電鐵株式会社 鉄道部 部長(技術担当) 田代宜宏
- 上信電鐵株式会社 鉄道部 部長(営業担当) 小島博
- 公益財団法人群馬県観光物産国際協会 観光物産部 次長 佐藤肇

18 TOP INTERVIEW 120余年の歴史を継承して 地域の路線を守り続ける。 ●上信電鐵株式会社 代表取締役社長 木内幸一

- 上毛電氣鐵道株式会社 取締役社長 古澤和秋

20 基調報告― 鉄道が地域を支え、 地域が鉄道を支えるために TOPICS ●名古屋大学大学院 環境学研究所附属 持続的共発展教育研究センター 教授 加藤博和

- 上田電鐵株式会社 運輸部 運輸課長 矢澤勉
- 青い森鐵道株式会社 連載④ 地方民鉄紀行
- 豊橋市とその附近 連載④ 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎の世界
- 首都大学東京非常勤講師 藤本一美